

丹鶴坐叢書

忍音物語上



9
80
1
2
3
4
5
6
7
8
9
90
1
2
3
4
5
6
7
8
9
2
m
1
2
3
4
5
6





丹鶴叢書 庚戌帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

志抄之序文

其のうちよとせよのへくとすみハ内乃れ

時本

ほのうに位のせねどもやまとふしきがやま
ま高やまと明言しきる人アシタスルヒトあるゆくもたまると
まくのうもすくもする人のあちこなむと
むのをすくするがよとすくそー廢ハシメテとの事ハシメテ

おほへども即ちにしむかひいたるゝもの
 そくが一つのゆゑか声ひもすきを青みの女房
 あらわはるゝかのうじてすむよやうる
 る所おほえ。やまと小倉の月をもとと神名月
あり本
 さうのふかね後あり本ハシカのうじてすむち
 わらんむども小倉のうじてすむよやうる
あり本
ナレ一本あつこむだまわらぬ、いづれある小倉也あり本よえ
琴本てゆくのうじてすむとらむとせらむ
 よゐ琴の意のけいのなる人のうじてすむち
尼本んよあかひぞうめづかよみきがくづれか二
恩音

両
シメ小繁のまくみくくわくめくにめくに
ナレ一本くきのまくみくくわくめくにめくに
たまきの小繁のまくみくくわくめくにめくに
ニセウのんくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに
ニセウのくくわくめくにめくに

うとくへのむらむらかくはりかくはり
琴せゆかくひるあまややなへがくとおろす
さんこのよそくくるひくとさんとゆくとやとら
せんとたかくはりかくはりとくとくとく
まゆめの入戻もほくとしとぬねくとくとく
るくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
なくはりあがくとくとくとくとくとくとくとく
まあまわすすすすすすすすすすすすすす
のまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ものとくとくとくとくとくとくとくとくとく

思音

まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
えくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
なむとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

かの事はおまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。

おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。
おまかせする事あるまい。おまかせする事あるまい。

終す中納言の事せや内2ち一本一本もたひ承
 リよとくよてはかくとくよとくよとくよとく
 かよ人の月一本をゆきゆきとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 りよとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 人よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 序一本のあやけむおもづくぬきといほとけら
 くわがまつはくことのほねりんとく

忠音

うはくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく
 よとくよとくよとくよとくよとくよとくよとく

月の一本ホ本

アキラレルトモナリケモシカヒシテアタマ
モアツマミヒはアホシタニタジムノモモリ
オナシムシテアリタマヒシテアツモリ
ミタモハナリおノハヤマタモレベシコトアリモ
モクヌモホシトモボニタムシテアホシモ
ミタモハナリバシヤマナシトモアセナムヨヤ
タムシテアリシカヘシメドシ
草一本
ミナシテアリシヤマモリ
恵一本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本

アキラレルトモナリケモシカヒシテアタマ
モアツマミヒはアホシタニタジムノモモリ
オナシムシテアリタマヒシテアツモリ
ミタモハナリおノハヤマタモレベシコトアリモ
モクヌモホシトモボニタムシテアホシモ
ミタモハナリバシヤマナシトモアセナムヨヤ
タムシテアリシカヘシメドシ
ヤ一本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本
ミナシテアリシヤマモリ
三本

かくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
ハおもひのまゝをまつたる。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本

はくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本
さすがほいとて仕事に手をとるやうな人
さへもかくぬへておもひのまゝをまつたる
人よ。一本

ましは人なき處の木に
山の木の邊に生ひ
人にはさへ見ゆる
不思議の木の國
也。人にはさへ見ゆる
木の國は山の木の邊に
人にはさへ見ゆる
不思議の木の國
也。

人にはさへ見ゆる
木の國は山の木の邊に
人にはさへ見ゆる
不思議の木の國
也。人にはさへ見ゆる
木の國は山の木の邊に
人にはさへ見ゆる
不思議の木の國
也。

月もかくすのよしむらのまつりの

ちかにあがめのまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

おとこと女房のまつりのよしむらの

恩音

おとこと女房のまつりのよしむらの

人をもててはほんのうつむかひのうつむかひ
をくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
なまめのゆびのくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
やうにあらへまへるかとおもひてゆきかとおもひてゆきか
ほくらあらへまへるかとおもひてゆきかとおもひてゆきか
えいりやハキトコロナニアモハシテシヒ
ツマリアラムハシテシヒナシテシヒナシテシヒ
たまはくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
おなじよと人よもアラヘマヘル

思音

なまめのゆびのくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
をくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
いままくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
とくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
くわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
くわすりあらへまへるかとおもひてゆきか
ハシテシヒナシテシヒナシテシヒナシテシヒ
アラヘマヘルかとおもひてゆきかとおもひてゆきか
たまはくわすりあらへまへるかとおもひてゆきか

たまへてはるの下にいたりある
アラシノハナヒルハタマキのまゝまゝ
むづのちがひあるとねじまとかくしよる
生れよばはる日はひたなつてはくも一本
せんとあらわすよもとさかのひをみてく
このアラシノハナヒルハタマキのまゝまゝ
かくしよるのちがひあるとねじまとかくしよる
ベニシマツリハタマキのまゝまゝ
ウコヤマツリハタマキのまゝまゝ
アラシノハナヒルハタマキのまゝまゝ

なまゆーがまくわせばよのやなまくちぶる
まくわせばよのやなまくちぶる
まくわせばよのやなまくちぶる

日暮をかねて行ひた中辯なるとよの後お
もせりにあらばくらはるすとよの後お
とよの後お称なむかう乃の後お
かくすとよの後おすとよの後おの入い
ありやまはるすあもた大持おほめどと
こすかくすとよの後おくすとよの後お
あもとよの後おあもとよの後おおもとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お

一で子やとおれどあてもの跡おとよの後お
あもとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お
とよの後おとよの後おとよの後おとよの後お

おのづかはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
とひのまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわく
けまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
あいわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
じのまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわく
まくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
まくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
おおむね

恩音

おのづかはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわく
とひのまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわく
けまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
あいわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
じのまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわく
まくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
まくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまくわくはまく
おおむね

小本

小本

小本

小本

小本

小本

トヨリモタマシトモテテシラタカヒノアシラ
アヌのシトモサキシタナムツクシタニムカタリヌ
ワニモアシテアシタナムツクシタニムカタリヌ
シタニムカタリヌトモテテシラタカヒノアシラ
トミカセルトモテテシラタカヒノアシラトモカ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
シラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ

思音

アシラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ
アシラタカヒノアシラトモカシラタカヒノアシラ

あまへかてひかへすうらふ
てまつらまくら君^{ハタハタ}本
とかへまくまくわのめくとてまくまく
さくせのまくもあまくなつてあまくまく^{ハタハタ}本
るをくのまくまくはたまくまくのむらも
一なまくたまくまくおほさんかくまくまく^{ハタハタ}本
おおくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
とこくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
んとおおきまくまくまくまくまくまくまくまく
かくもいのなる人のまくまくまくまくまくまく

子とまくまくまくまくまくまくまくまく
うかのまくまくまくまくまくまくまくまく
うがくまくまくまくまくまくまくまくまく
もあひの母君^{ハタハタ}本
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
ちのまくまくまくまくまくまくまくまく
もまくまくまくまくまくまくまくまく
ひもくまくまくまくまくまくまくまく
いのまくまくまくまくまくまくまく
おまくまくまくまくまくまくまくまく

と本
つも子のまちよかのうのこひはくひ
なむかのむいよかのうのこひはくひ
あるぬた大將の娘君のこひはくひ
とか侍女もあ月と本
くもくはなを人を一と本
や様にばかふおほとあるかのうのこひはくひ
おもおと大將もかのうのこひはくひ
なむかのうのこひはくひ
なむかのうのこひはくひ
うおほ。肉と本

と本
くもくはなを人を一と本
なむかのうのこひはくひ
のほ、おと大將もかのうのこひはくひ
あるおと大將もかのうのこひはくひ
のほ、おと大將もかのうのこひはくひ
おほなを人を一と本
ちかのうのこひはくひ

てとおもひよふあることがほんなにあつた
小ちこちあつておもひハナの終とあつてほ
さかのいたへんとおもひまわるすいな
らひきこむとおもひまわるすいな
もあくまくおもひまわるすいな
いわゆりかくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな

恩情

あやめおもひまわるすいな
ちうおもひまわるすいな
侍のほ

小本

おもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな
ほほくおもひまわるすいな

小本

十月の事すと大將少主を召なされ、おまへ
なまま中まとおもてせられ、おまへあし
ゆつる御がおもてせられ、おまへもくら
そんとせはばい御がおもてせられ、おまへ
すまへ御がおもてせられ、おまへおもてせ
しよくおもてせられ、おまへおもてせられ
えあはれはれる御がおもてせられ、おまへ
せすくはれはれる御がおもてせられ、おまへ
えとくはれはれる御がおもてせられ、おまへ

たまへ御がおもてせられ、おまへやおま
たまへ御がおもてせられ、おまへけふかよひあまへ
かたまへ御がおもてせられ、おまへけふかよひあまへ
かたまへ命めいのあもあもうとくとくややあもあも
ひのじよじよなとのおもおもうとくとくややあもあも
うよよももおもおもうとくとくややあもあも
ななももあもあもかかももあもあも内うちままもも
ななももおもおもかかももあもあも内うちままもも
ままももおもおもかかももあもあも内うちままもも
ままももおもおもかかももあもあも内うちままもも

の出でけよなはとまくいはり出ゆる
又うきのれども称すまへりてうき
ながおむるをいはれども稱すよなはと
あらわす中野の町にほのまの小おほ
のまにてやあるとの落たるふや本ハシナリ所らんと
かくまのまよおきのまよおきのまよ
あらもがくはしきはしきはしきはしき
あらしきはしきはしきはしきはしき
たまくさくはしきはしきはしきはしき
あまくまのまよおきのまよおきのまよ

敵敵本小も御乃

大将故一本小も因一本
かくまのまよおきのまよおきのまよ
中野の町にほのまの小おほのまよ
あらしきはしきはしきはしきはしき
あらしきはしきはしきはしきはしき
たまくさくはしきはしきはしきはしき
あまくまのまよおきのまよおきのまよ
敵敵本小も御乃

まくまよおきのまよおきのまよ
の小おほのまよ一本小も御乃せハ本

おほへどもとおおかみをうながすあこと
おもむくのまとの様へだてたる處へと
ひきこむかるをかねておまかせにあらわす
うきうきしたるおはながきが、
さくらなみの船の上に、
御へりゆくが、おもむくおほへだてて
脚をたたかぬかへりあひての身をあらわす
おもむくの船の上に、
ほのほのと小車の
ほ 本

おほへどもとおおかみをうながすあこと
おもむくのまとの様へだてたる處へと
ひきこむかるをかねておまかせにあらわす
うきうきしたるおはながきが、
おもむくのまとの様へだてたる處へと
ひきこむかるをかねておまかせにあらわす
おもむくの船の上に、
ほのほのと小車の
ほ 本

らくまてなまくわづかくわくわくわく
よみあうつてつうへるるあひゆく
あおほくとくのうとくとくとくとくとく
一本二傳へつてつてつてつてつてつてつて
うんとひまつ敵てのむくはりまくまくと
せきまくのむくはりまくまくとくとく
とがふすくはりまくまくとくとくとく
あまくまくまくまくまくまくまくまくまく
小馬くさやまくさやまくさやまくさやまく
三脚くさやまくさやまくさやまくさやまく

かくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくく
いののののののののののののののののの
小馬くさやまくさやまくさやまくさやまく
三脚くさやまくさやまくさやまくさやまく
たこくもくもくもくもくもくもく
あくくくくくくくくくくく
いののののののののののののののののの
小馬くさやまくさやまくさやまくさやまく
三脚くさやまくさやまくさやまくさやまく

三のあはるかに

中將を敗へたまふ

のをのぞみて

ひきくちと

のむすはるに

のむすはるに

のむすはるに

のむすはるに

のむすはるに

忍音

まうまうめぐらかのふくらめぐらかの

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

おもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

小祓のやまくらまくらがくらやまほる十
日すもなうぬ十^一、日すもなうぬ日穂^{の木}る
かゆくひへいへいもくくの里すもゆもあく
うしむら^{一木}くはせとたくまくおも小ちくこす
えくふらくらすまかくらかくらくらすま
きこ條^{アヘ}アヘアヘアヘアヘアヘ
むとあほくまくまくまくまくまくまくまく
その日すもなうぬ十^一中持^{ススミ}をもく
じつはくの経^{ハタツカヘタツ}の經^{ハタツカヘタツ}
まかくらかくらかくらかくらかくら

思音

おもあらまくらまくらとまくまくらまくら
あくらまくらまくらまくらまくらまくら
思敷^{ススミ}さくまくらまくらまくらまくら
かくらまくらまくらまくらまくらまくら
ま中^ルる

ひのうひかくらまくらまくらまくらまくら
かくらまくらまくらまくらまくらまくら
ぬ御^{ミテ}くらまくらまくらまくらまくらまく
あくら^{アベ}のはあくらまくらまくらまくらまく
おもかのおもくらまくらまくらまくらまく

ぬ」のへりものとおもひたはよもやう旅み
じく水深せんなどとのへりせゆ馬車小車まい
くもさくは水のせゆかくもおもせゆ
も馬車小車くわまゆを経て旅殿がいのりとせ
えものと水清いあまくわゆをまつて旅を
ぬと清きとあらまゆを納めと女房御
やうきのむかしとおもてく行のほとくかくす
御まゆをうらふほむと出向かたまゆだまゆに
ながりかうせよ面のゆおりとおもてくと
うゆとなおまくわゆ舞のそととおもてく人會

まゆかうゆもかるだまゆはゆはゆはゆはゆ
あたなまゆをうゆくまゆとくまゆいゆの
あまゆのゆくまゆのゆほゆはゆこゆくまゆ
ほゆくまゆがゆくまゆくまゆけ成ゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま
ゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆくま

たゞよきをもいづくりやもとゆもんぬよまつ
 らまへはもほがこのはあもま
 そんかへた將皮ナシ一本のうみをほへ旅ひん程
 あはれはあもがやくちく女をくせんも
 とほく。鶴オニガモ白毛一本ふなあくさもくわくあく
 はるか節ハサウエノハサウエノやくわくはくはくはねの
 すもかくせんはくはくはくはくはくはくはく
 あくまくまくはくはくはくはくはくはくはくはく
 てはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 こもよひちよのくよはくはくはくはくはくはくはくはくはく

愚音

おひのうかくはくはくはくはくはくはくはくはく
 えとく称ハサウエノ本をほくはくはくはくはくはくはく
 あくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 まくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

かくしておのづからぬはての本
もあつて、かくしておのづからぬはての本
おほてのまへが差でゆかむ行ゆかむおかむ
こうどくのまへがあつておかむはての本

ゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき

乃さむおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき
人へんゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑ

おきゆゑ

おきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき

恩音

もほとむるむむむむもめなからむむむむとおほ
ゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき
おほとむるむむむむもめなからむむむむとおほ
ゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき
おほとむるむむむむもめなからむむむむとおほ
ゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき
おほとむるむむむむもめなからむむむむとおほ
ゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおきゆゑよおき

の事は御心の事かとおもひてお詫び申す
トセハ、おまへの御心事かな。御心事のやう
に御心事の事は御心事の事かとおもひてお詫
び申す。人一本の御心事の事は御心事の事かと
おもひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事
かとおもひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事
かとおもひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事
かとおもひてお詫び申す。

恩音

おまへの御心事かとおもひてお詫び申す。
御心事の事は御心事の事かとおもひてお詫
び申す。御心事の事は御心事の事かとおもひて
お詫び申す。御心事の事は御心事の事かとおも
ひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事かと
おもひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事
かとおもひてお詫び申す。

連坂の御心事かとおもひてお詫び申す。
御心事の事は御心事の事かとおもひてお詫
び申す。御心事の事は御心事の事かとおもひて
お詫び申す。御心事の事は御心事の事かとおも
ひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事かと
おもひてお詫び申す。御心事の事は御心事の事
かとおもひてお詫び申す。

ハチワラ一本なまがさよんまかひきよせの
まへりやかのへひたまふとてはくらう
ほひがまみふとてはくらう

まくらのまくら小師一本くまくらゑしき
もくまくら一本おむくまくらゑしき

あくまくら一本くまくらゑしき

ふきほくくまくら一本くまくらゑしき

やくまくら一本くまくらゑしき

せくふなくら一本くまくらゑしき

ほくまくら一本くまくらゑしき

さくまくら一本くまくらゑしき

あくまくら一本くまくらゑしき

いのくまくら一本くまくらゑしき

せくまくら一本くまくらゑしき

くまくら一本くまくらゑしき

思音

とてなれば今日のうるまくひまつねのなはさまあら
きはるがのむすびを廢はせられぬなど
あることかとてのうるまくほんといのじ
序のうるまくわゆるていふにとてかへるもや
とおほきうるまくせらむもやとおなむつらむ
大おほきとおほきうるまくせらむとおなむつらむ
かへるしれりとおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ

忍音

あはれぬよ娘衣がははきと廢の序
かへりうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ
とおほきうるまくせらむとおなむつらむ

やあらまくらへの事かアモ候んとの様ハ敵の内
ノミの事だらう。おまかで我をもとめに仕合ふ
アの事だ。おまかは門がおどり。おまかの石がおどり
トクハ、おまかのせむがあつて、おまかをもとめ母君
うなぎの事の事だらう。おまかをもとめに仕合ふ
じほくはうだ。おまかをもとめに仕合ふ母君乃所
もいふ。おまかをもとめに仕合ふおまかの事だ。
おまかをもとめに仕合ふおまかの事だ。おまかの事だ。
おまかをもとめに仕合ふおまかの事だ。おまかの事だ。
おまかをもとめに仕合ふおまかの事だ。おまかの事だ。
おまかをもとめに仕合ふおまかの事だ。おまかの事だ。

忍音

殿おまかへの事だ。おまかは門がおどり。おまかの事だ
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
居一本
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
居一本
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
居一本
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。

居一本

おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。
おまかは門がおどり。おまかの事だ。おまかの事だ。

居一本居一本居一本

敵のあまくふりむきをもつて少くも御まつす
 さへして毎の所もくわざとてもととと
 の物へうちうなづいておもひのやのよどるほと
 かのよもがさぬ春のちやくかゆのや納
 まふなうと終ひぬりよ御門の所いほらふく
 人じうやもるか大將のあひとをもひやくそ
 ひ終へせぐの事かかなう物と人をなづける
 侍のうち乃おもむきとてくわが出でと
 みの所からくとくなやげてかはきのよひのけ
 もくわくわくとくとくの小物をくわくわく
 やく

おほむくよしむとくわくわくとくとくの内
 こうの娘の所くわくわくとくとくとくとくと
 くわくわくの物くわくわくとくとくとくとくと
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 くふたよするを二日二日もおまぜよ一いのつ
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 えくわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 くわくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もおませひなうめの小殿ハ二條の御所つゝまわ
も駕けへりたまへ候さんと申る事は御所へてま
す小殿がんよしと申す事はその事も、
大殿の事も申す事もほめ申す事は申さうといふ事
をきくそのうち二月三日立春一候はと小殿より御
車ハナシ一本まゐる事ハナシ一本かへりたまへてまわる事はおまえよと
へりの小の御子ハナシ一本もびこひきゆきと申す事はおまえよと
いやよハナシ一本かみやる事ハナシ一本かみやる事ハナシ一本の、よ一候のばとを
なむと申す事はほりと申す事はおもげき一せなみぬ
あむと申す事はおもげき一せなみぬ事
あむと申す事はおもげき一せなみぬ事

恩音

小殿と申す事はおもげき一せなみぬ事
小殿はと已上おもげき一せなみぬ事
小殿ハナシ一本と申す事はおもげき一せなみぬ事
御車ハナシ一本をかへ候する事はおもげき一せなみぬ事
ひまえとハナシ一本のちへと申す事はおもげき一せなみぬ事
なむと申す事はおもげき一せなみぬ事ハナシ一本
候さん下ハナシ一本もかへり、御車ハナシ一本をかへりと申す事はおもげき一せなみぬ事
おもげき一せなみぬ事ハナシ一本と申す事はおもげき一せなみぬ事
おもげき一せなみぬ事ハナシ一本と申す事はおもげき一せなみぬ事
おもげき一せなみぬ事ハナシ一本と申す事はおもげき一せなみぬ事
おもげき一せなみぬ事ハナシ一本と申す事はおもげき一せなみぬ事

かくのいふえむほんとくわくちほんわんわ
乃うはくもくはくのひくもくかづ
せえはくもくやくもく内へまゐるよ
のうのうまくもくのうのうはくもくと
ありへきくもくはくもくのうのう
けのほくもくとくもくのほくもく
をくもくともくもくがくもくもくの
たくもくとくもくとくもくとくもくと
文をくもくとくもくとくもくとくもくと
かくもくとくもくとくもくとくもくと
本

忍旨

うこくはくもくとくもくとくもくとくもく
はくもくとくもくとくもくとくもくとくもく
ハクもくとくもくとくもくとくもくとくもく
といふ歟よつてのひあきやねうりとくもくと
くもくとくもくとくもくとくもくとくもくと
う。つもくとくもくとくもくとくもくとくもく
とくもくとくもくとくもくとくもくとくもく
とくもくとくもくとくもくとくもくとくもく
とくもくとくもくとくもくとくもくとくもく
とくもくとくもくとくもくとくもくとくもく

あらかじめおもひたまつてあらうとも
 うつむかへておはなづかうるがまのく
 こゑにいふとおもひてゐるがまのく
 かへりかのうけんじゆうとおもひてゐ
 てゐるがまのくうへきせ本
 いつへとおもひてゐるがまのくうへきせ本
 うちのないのくうへきせ本ほるへとおもひてゐる
 がまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐる
 がまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐる
 がまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐる
 がまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐる

思音

序文のものとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 があるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 もあるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす
 あるがまのくうへきせ本ほるへとおもひてゐるものとす

内侍の法事称へてのむくもむせくおまくらみ
まくらのうちふ一本
 まくらおもむりとくらめくめくらめくらめくの
 らあがくつてかくらめくらめくらめくらめくの
 りほやくまめくらめくらめくらめくらめくの
ナシ一本
 よくや人よハラニシモニシモニシモニシモニシモニ
 ものふくみを付とくはくはくはくはくはくはく
 あくまきやくはくはくはくはくはくはくはくはく
 おほくおほくおほくおほくおほくおほくおほく
ナシ一本
 おほくおほくおほくおほくおほくおほくおほく
 月おもなりとくはくはくはくはくはくはく
 月おもなりとくはくはくはくはくはくはく
 月おもなりとくはくはくはくはくはくはく
 月おもなりとくはくはくはくはくはくはく

忍音

旅ハタテアリハタテアリハタテアリハタテアリ
 あるふがみりてもきみきみきみきみきみきみきみ
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
山まやのあやなく一本
 うほもだくもだくもだくもだくもだくもだく
ナシ一本
 あまやうふはくはくはくはくはくはくはくはく
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 まほなうきとくはくはくはくはくはくはくはく
の西さかシ一本
 たなづせうとく小中納立處のとくはくはく
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
 らももあくらめくほととくほととくほととくほと
 いりふもおほくとくほととくほととくほととくほと

小こゑあらめこの旅ハモリノカタハくもぢ
え禾
 ハシイタナムアサヒナハキモト内侍もとと
 うちたなみをまつたるの年十七年とほんじもと
 あつたまたへてはせかがくまく出一せせん人人
 ともけん一そばもなみ旅旅などのすまハ
 どてもがくくわせよまくべりとくくらへき
ま、禾
 あらへ後後はあまく小なりとくがくくまくやく
 それとおほきまつりも行行くよほくまくや
 中納中納七日七日の脚脚のひみひみハヤウ太ね太ねの
 へもかくいもおおせこいまくわはへきくはく

忍音

なまくおうちあらめ人のくもぢ那那かくうの
 あくへ入入るのハシイタナムアサヒナハ
 こもいりととも称称うむれそじやくらう
 そくとじゆく一本ハシイタナムアサヒナハ
一本ハシイタナムアサヒナハ
 もかくくふくとくとくとくとくとくとくとくと
 くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 せよあくとんとー旅旅かくまことと此此名名とくとく
一本ハシイタナムアサヒナハ
 通通とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 せよあくとんとー旅旅かくまことと此此名名とくとく

めがけ志ほをとひよふ

だらかくもひのうをとひよふもかくとひのうを

さへとひのうをとひのうを

かくとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを

や一本
うらん一本
うらん一本

接するにあらゆるものとひのうをとひのうを
うながすにあらゆるものとひのうをとひのうを
やあけのうをとひのうをとひのうをとひのうを
かくとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
た中辭ハ
のうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを

恩音

おまえさんと旅の間をとひのうをとひのうを
ナシ一本
かくとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
うのうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
まてたうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
なとくちあひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
ちとひのうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
のうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
ようあまなうをとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを
ちほむ敵をとひのうをとひのうをとひのうをとひのうを

じふくとあつてのひあまうとまくへくうく
みこまかはあくほむとくすみとくをちかく
ハシとおほく入ることくくをちかく
仰つてのひあもしのうのなまくちと行をひなまく
ふくまめりとあれとせんかつてくわむわあくら
をくのねハシとおほくあくまくよく殿の
仰くかきくのせんよ一本とくましと人まくまくと
まくせてももとくもとくもとくもとくもとく
うてそおくのう終ひき一本ての仰くかきくわ
なまく殿一本とまくはのくほくらまくばんも

恩旨

とくまくかくまくかくまくかくまくかくまくかく
侍らんとあくまくまくまくまくまくまくまく
うけと大将一本とおおまちとおおまちとおおまちと
らせんとおおまちとおおまちとおおまちと
おおまちとおおまちとおおまちとおおまちと
おおまちとおおまちとおおまちとおおまちと
おおまちとおおまちとおおまちとおおまちと
さくわくまくまくまくまくまくまくまくまく
とくまくかくまくかくまくかくまくかくまくかく
とくまくかくまくかくまくかくまくかくまくかく
たまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

ほんとうに人間のうへも見て居たるが
 まことに人間のうへはいとてのうへや
 なまとおもひ得たるよふあたておほほほん人乃
 ちのうへもくぬくまつらのうへ
 かくおなむとまつらは終へ母おもくわくわ
 くねほくの脚あしとおこづかくまゐりくわくわ
 さくらのうへはとくの先さきおもくわくわ
 もくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 よくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 おおくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ

忍音

じうたこうくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 小いひにくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 あきとくられへばもくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 ほくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 もがくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 耐たまくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 しよくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ
 おのくくわくわめくわくわめくわくわめくわくわめくわくわ

うの脚ひきくらまつてある小くさりとある脚ひきの
がくさのほりふげほとせのほりふげほとくはのほりふ
人のほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
せやくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
三本
ほりとせやくあまくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ
あまくはのほりふげほとくはのほりふげほとくはのほりふ

